

国際知財司法シンポジウム2021



パネルディスカッションの様子

令和3年10月20日から10月22日にかけて、「国際知財司法シンポジウム2021～アジアにおける知的財産紛争解決～」が弁護士会館講堂クレオにて開催されました。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためウェブ会議形式で実施し、3日間で延べ2530人の方々に視聴していただくことができました。

平成29年にスタートした本シンポジウムは、各国の知財司法制度に関する最新情報を共有し、相互理解を深める場としてこれまでも大きな反響を得てきました。また、産業界や研究者にとってもそれらを知る貴重な機会となっています。

5回目となる今回のシンポジウムでは、日本以外にもアジア12か国から20名を超える知的財産分野の専門家をパネリストとして迎え、アジアにおける知的財産紛争解決に関する最新の議論と課題について、活発な議論が行われました。



開会挨拶を行う戸倉三郎最高裁判事

本シンポジウムの
アーカイブ動画は
YouTube で公開中！



裁判所パートである1日目には日本における「特許権の間接侵害」を題材とした模擬裁判を行った後、「特許権の間接侵害の国際比較」及び「民事裁判における専門的知見の活用」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



模擬裁判の様子

法務省パートである2日目には「商標権侵害に関する民事訴訟」及び「模倣品に対する行政上のエンフォースメント」をテーマとするパネルディスカッションが、特許庁パートである3日目には「審判の最新状況」及び「各国のAI、IoT関連発明の進歩性」に関する講演の後、「仮想事例に基づく進歩性判断の各国比較」をテーマとするパネルディスカッションが行われました。各国が互いの法制度や審理運営の在り方について知識や理解を深めることができ、大変有意義な機会となりました。

<主催> 最高裁判所、知的財産高等裁判所、法務省、特許庁、日本弁護士連合会、弁護士知財ネット

講演資料等（裁判所パート）はこちらから確認ができます。
知的財産高等裁判所ウェブサイト
<https://www.ip.courts.go.jp/jsip/index.html>

